

第2章 台東区の現況

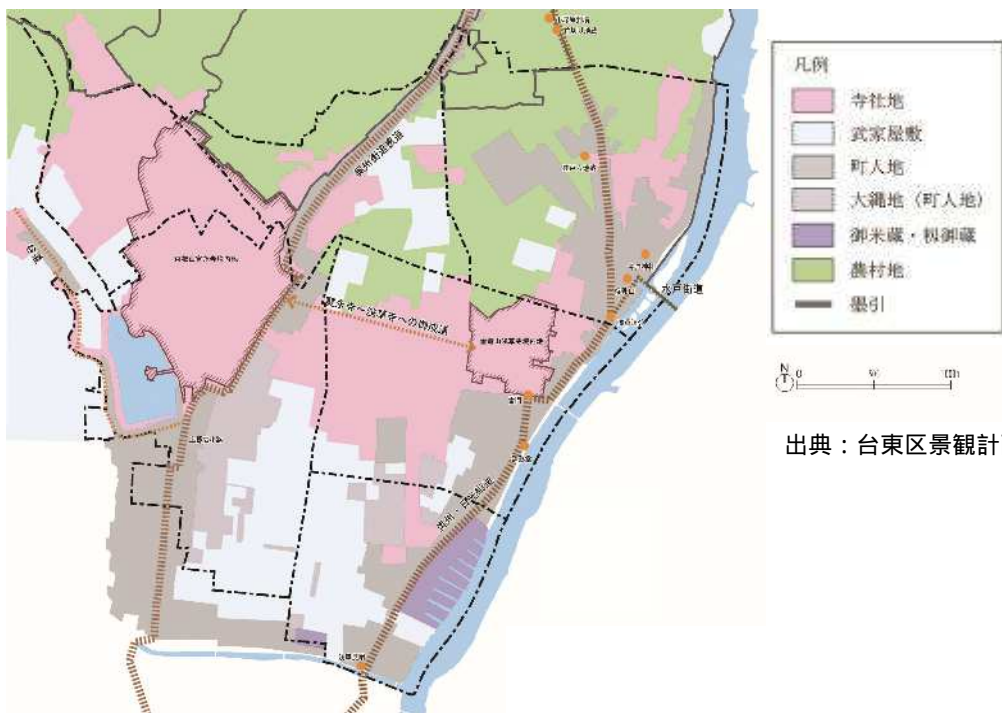
1	台東区の都市の成り立ち・変遷.....	2-1
2	ひとの動向.....	2-4
3	まちの動向.....	2-6
4	台東区の広域的な位置付け.....	2-10

1 都市の成り立ち・変遷

(1) 江戸時代まで

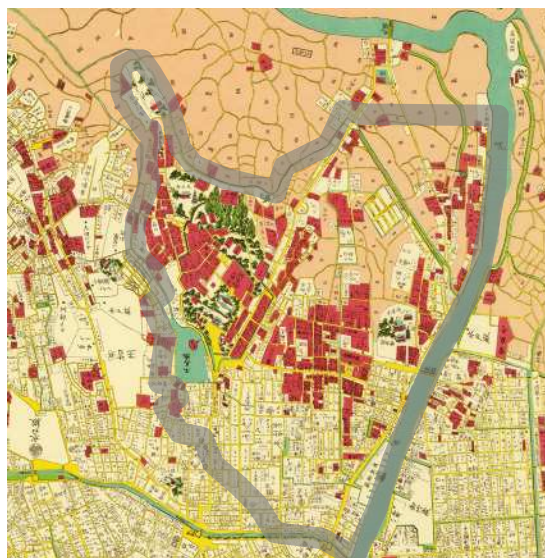
- 上野台地では一万年以上前から人が生活していたが、低地部は東京湾に面した湿地であり、市街地として形成されたのは江戸期以降である。
- 江戸城下の都市部、郊外部の境界部分にあたり、都市性と自然性を併せ持つ市街地を形成してきた。大名屋敷は南部に、北部には主に町人地や寺社地が配された。
- 徳川家康が五街道を整備し、奥州街道、日光街道沿いが栄えた。
- 武士や町人など多様な人々の交流によりまちが発展し、繁華街などが形成されてきた。大火により、まちが焼失してもそのたびにまちは再生した。

江戸期の町割による都市構造



出典：台東区景観計画

江戸期の台東区
(安政6(1859)年)



出典：江戸圖 安政(国際日本文化研究センター所蔵)に区境の情報を加筆

下谷広小路(安政4(1857)年)

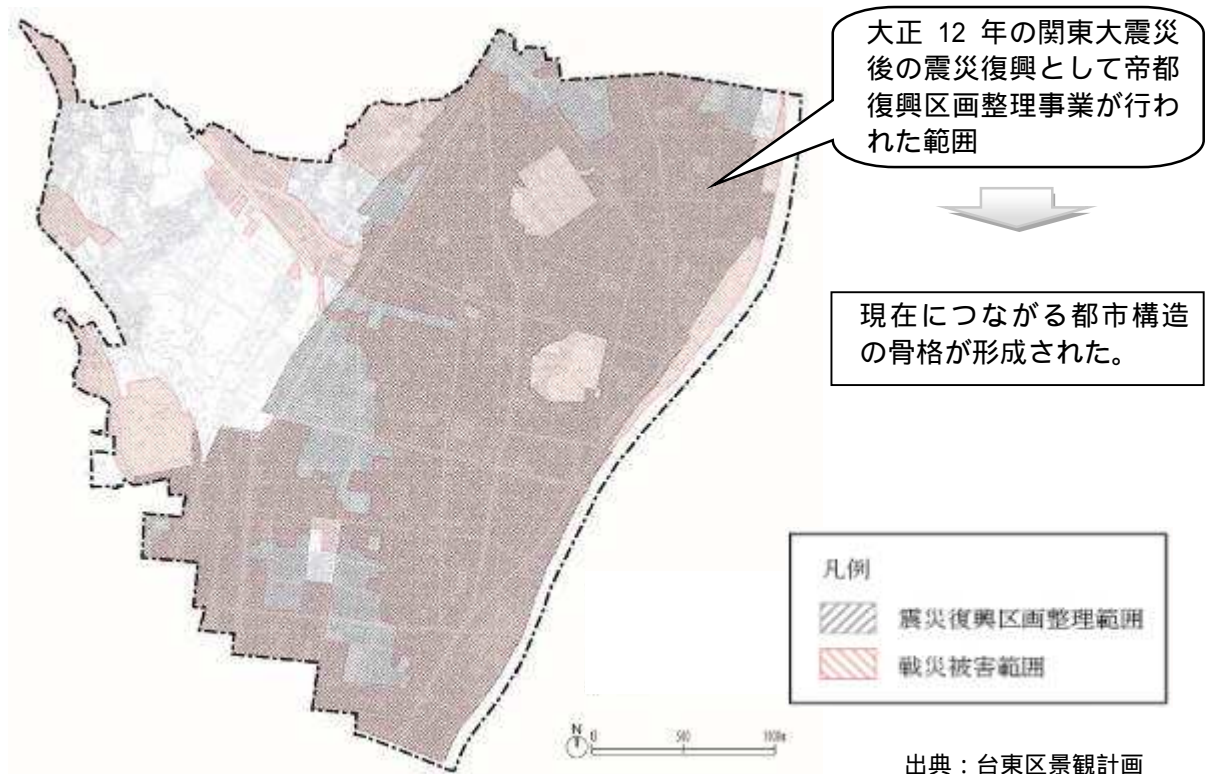


出典：東都下谷繪圖(国際日本文化研究センター所蔵)

(2) 明治時代以降

- 関東大震災後の震災復興区画整理事業により、江戸期の道を活かしながら延焼遮断帯として道路などの都市基盤施設が整備され、その骨格が現在にも引き継がれている。震災により古い街並みの大半は失われたが、北西部は被害を免れた地区があり、当時の風情を残している。
- 第二次世界大戦による戦災の復興と戦後の経済成長により、まちの姿は大きく変化したが、歴史や伝統的文化を活かしながら個性的な台東のまちが培われ、現在にも息づいている。

震災復興区画整理、戦災被害範囲重ね図



2 ひとの動向

(1) 住む人・働く人・訪れる人の動向

- 人口は平成50年代まで増加傾向であり、将来的には少子高齢化が進む推計である。
- 昼間人口比率は減少傾向であり、区内に在住し就業する人の割合も減少している。
- 台東区へ通勤・通学で訪れる人は減少し、観光・買い物等で訪れる人が増加している。
- 観光客数は年々増加しており、外国人観光客数も大きく増加している。

年齢3区分別人口の将来推計



出典：台東区基本構想策定にともなう人口推計調査

昼間人口・昼間人口比率の推移



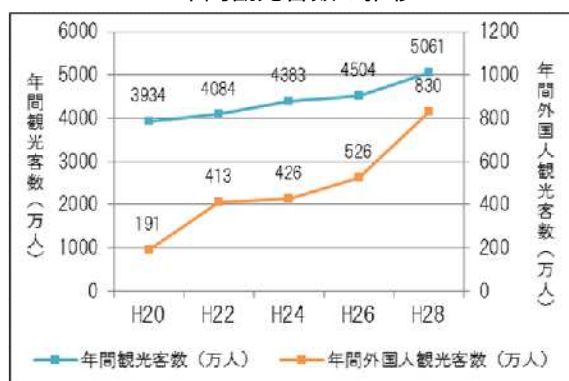
出典：国勢調査より作成

区内常住の15歳以上就業者に占める
区内就業者の推移



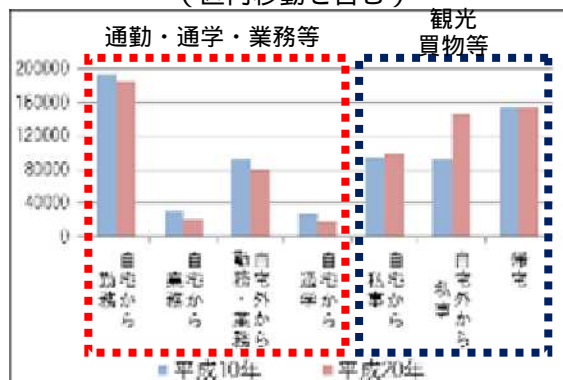
出典：国勢調査より作成

年間観光客数の推移



出典：台東区観光統計・マーケティング調査より作成

目的別台東区へ訪れる人員数の推移
(区内移動を含む)



出典：都市圏パーソントリップ調査より作成

(2) まちへの意識

- 区内居住者及び区内への通勤・通学者を対象とした、台東区が今後どのような方向に発展するのが望ましいかというアンケート調査において、区内居住者・区内への通勤・通学者ともに「災害に強く犯罪が少ない安全・安心な都市」と回答した人が多かった。
- 同アンケートにおいて区内居住者については、「医療・福祉や教育施設、子育て環境が充実した都市」、区内への通勤・通学者については「歴史・文化・伝統を活かした観光が盛んな都市」と回答した人が多かった。

台東区の将来都市像に関する調査結果

(質問項目：台東区のまちづくりは今後どのような方向に発展するのが望ましいか)
(区内居住者/回答数：575/3つ回答)



台東区の将来都市像に関する調査結果

(質問項目：台東区のまちづくりは今後どのような方向に発展するのが望ましいか)
(区内への通勤・通学者/回答数：381/3つ回答)

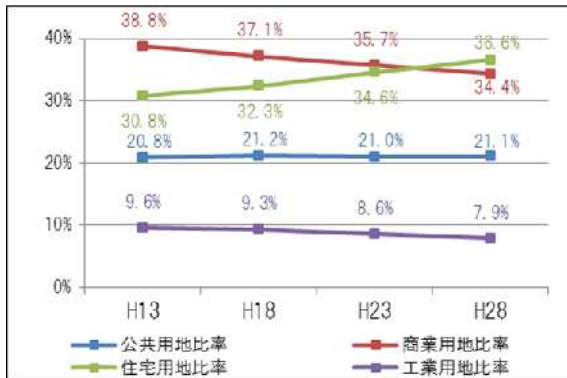


3 まちの動向

(1) 土地利用

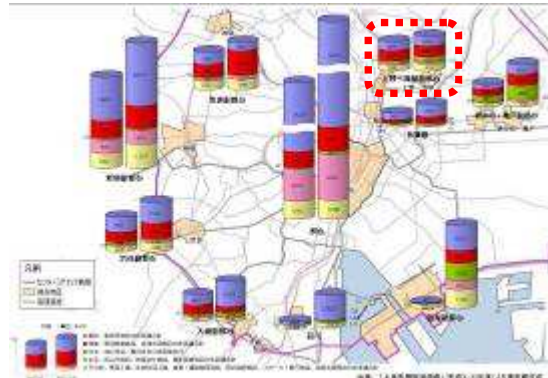
- 土地利用比率は住居系が増加、商業系が減少しており、平成28年度には両者の土地利用比率が逆転した。
- 上野・浅草は都内の他の拠点に比べ床面積の増加が少なく、機能の集積が低い。

土地利用比率の推移



出典：東京都土地利用現況調査より作成

都内における拠点の機能集積の推移

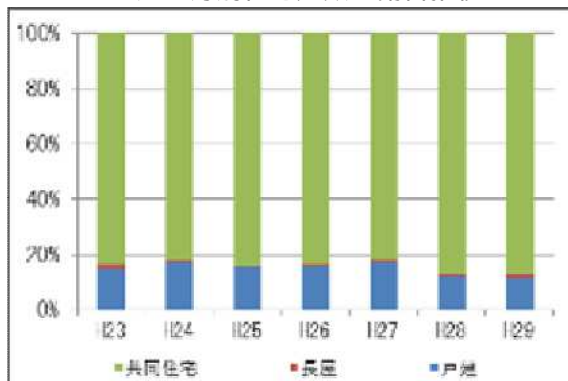


出典：東京都都市計画審議会第1回都市づくり調査特別委員会資料（平成27年）

(2) 生活・住宅

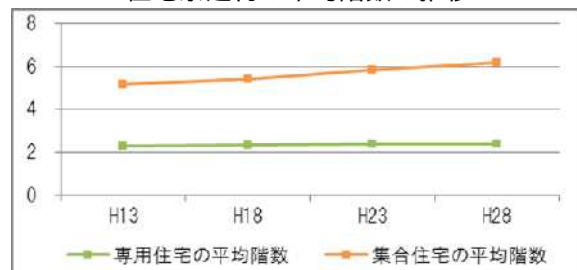
- 近年の住宅供給は、共同住宅によるものが主流である。
- 専用住宅の平均階数・平均敷地面積は減少傾向にあり、集合住宅の平均階数・平均敷地面積は増加傾向にある。

建て方別住宅戸数の割合推移

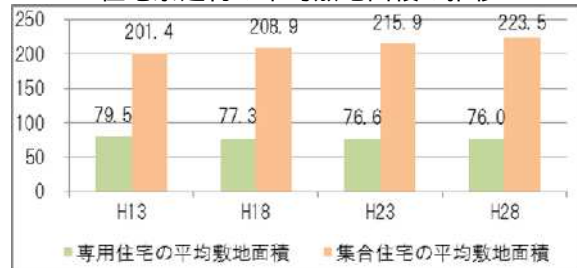


出典：住宅着工統計調査より作成

住宅系建物の平均階数の推移



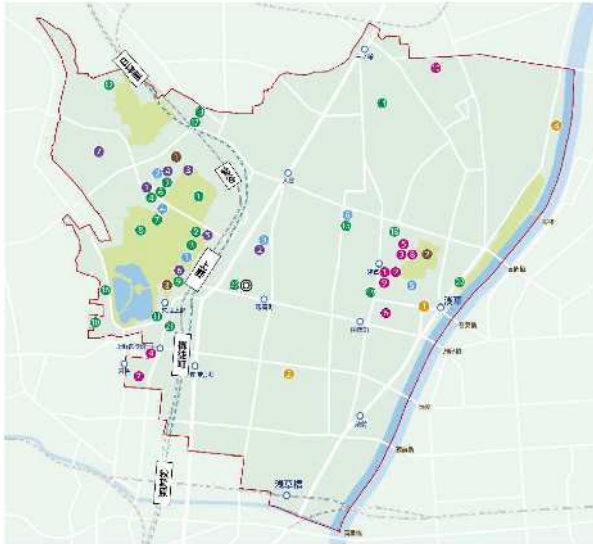
住宅系建物の平均敷地面積の推移



出典：東京都土地利用現況調査より作成

(3) 文化・産業・観光

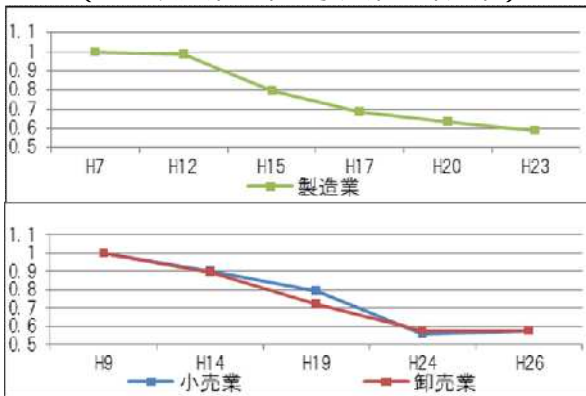
- 上野や浅草をはじめ、区内各地に多様かつ多くの文化資源が分布している。
- 事業所数は減少傾向にある。
- 事業所を業種別にみると、卸売業、宿泊業・飲食サービス業、小売業が多い。
- 宿泊施設の客室数は年々増加している。



区内文化資源マップ

出典：たいとう文化発信プログラム

事業所数の推移
(上：製造業 / 下：小売業・卸売業)

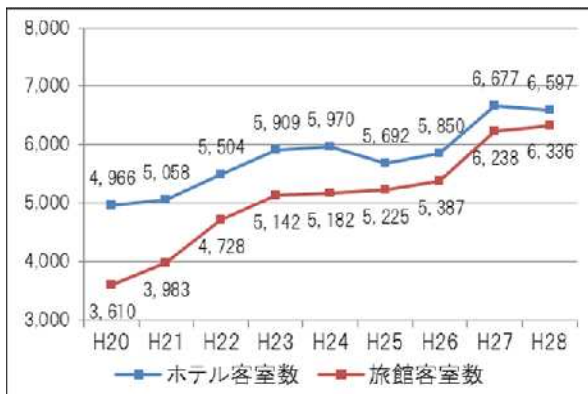


出典：(仮称)台東区産業振興計画策定のための実態調査報告書より作成

業種別事業所数



出典：平成26年度経済センサスより作成



宿泊施設の客室数推移

出典：東京都福祉・衛生統計年報より作成

(4) みどり・環境

- 上野公園や浅草寺周辺、隅田公園等のまとまったみどりがあるが、市街地でのみどりは少ない。
- 近年、二酸化炭素排出量は減少傾向にあり、特に民生部門が減少している。

台東区の緑被地分布



出典：台東区緑の実態調査

台東区の部門別二酸化炭素排出量の推移

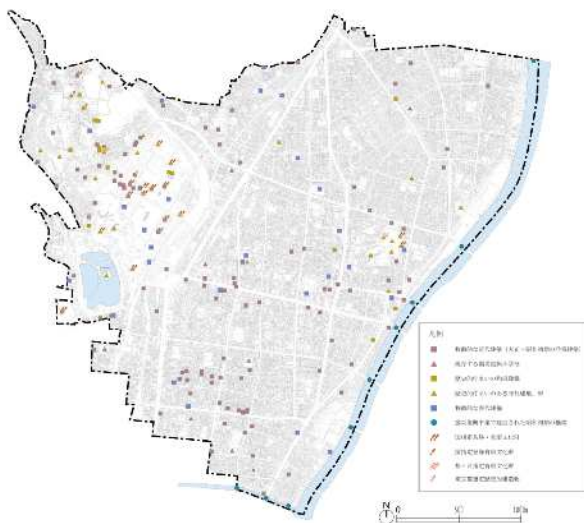


出典：オール東京 62 市区町村共同事業
「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」
より作成

(5) 景観

- 多様な景観資源が区内の各地に分布している。
- 国立西洋美術館が世界文化遺産に登録され、周辺地域における街並みの調和が求められている。

歴史的建造物分布図



出典：台東区景観計画

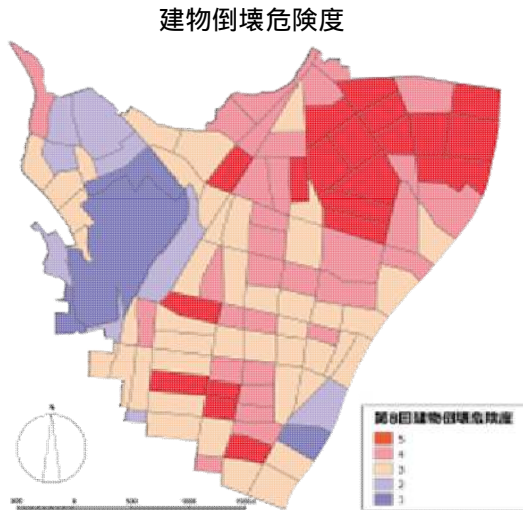
国立西洋美術館



©国立西洋美術館

(6) 防災

- 区の北部地域を中心に、建物倒壊危険度が高く、南部にも一部高い地域がある。
- 荒川や神田川、高潮等による水害の可能性が懸念される。



出典：地震に関する地域危険度調査（第8回）



(7) 道路・交通

- 都市計画道路の整備率は80%を超え、幹線道路の整備が進んでいる。
- 全体的に交通の利便性が高いが、一部鉄道の利用圏域外の地域がある。

都市計画道路の整備状況

進捗状況	延長	割合
事業完了	33,239m	80.6%
事業中	1,170m	2.8%
未着手 (現道あり)	6,321m	15%
未着手 (現道なし)	504m	1%
合計	41,234m	100%

出典：台東区都市づくりのための基礎資料

鉄道・バス利用圏域図

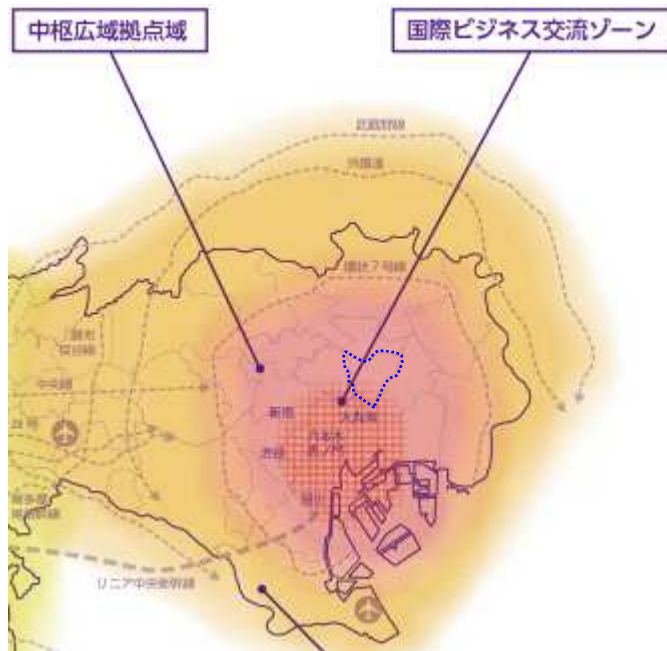


出典：台東区都市づくりのための基礎資料

(2) 東京都都市づくりのグランドデザインでの位置付け

2040年代の目指すべき東京の都市の姿を示している、東京都の「都市づくりのグランドデザイン」において、国際的なビジネス・交流機能を担う拠点が集積する「国際ビジネス交流ゾーン」が区部中心部に設定されている。このゾーンに隣接する台東区においても、これらの機能と連携した都市機能集積、拠点形成を図る。

都市づくりのグランドデザインにおける新たな地域区分と台東区内の拠点・地域



上野・浅草

- 上野の美術館や博物館の集積、上野恩賜公園や上野動物園、浅草寺を中心に、歴史・伝統を感じさせる街並みや、隅田川などの地域資源を生かし、芸術・文化・観光の拠点が形成されています。
- 交通結節機能の強化や歩行者空間の整備が進み、商業、業務、公共・公益施設などが高度に集積するとともに、文化・観光施設との連携により、国内外から多くの人が集まり、交流が生まれる拠点が形成されています。
- 駅と船着場との交通結節機能が強化され、隅田川の水辺空間と浅草寺周辺のにぎわい空間が結び付き、交流が活発になっています。

谷中・根津・千駄木(谷根千)

- 谷中公園や多くの寺社の緑、落ち着いた居住空間が継承されながら、地域の防災性が向上し、住宅地と観光地の調和した、伝統文化が育まれる魅力的な地域が形成されています。

出典：都市づくりのグランドデザイン（平成29年、東京都）

